

先月、木曽郡内において、林内で作業していた人がツキノワグマに襲われ2名が軽傷を負いました。
県内でも農作業中にクマに襲われる人が増えています。
また、食べ物を求めてクマが里地に近づく季節になっています。

クマの被害にあわないため警戒をお願いします。

山の中では、どこでクマと遭遇してもおかしくありません。

遭遇しないための対策を必ず行いましょう！

＜朝夕の行動は避け、複数人で行動する＞

- 朝夕はクマが活発に活動します。
この時間帯に山中に入るとは避けましょう。
- 1人ではなく複数人で行動し、食べ物やゴミは必ず持ち帰りましょう。



＜クマ鈴、ラジオ、笛などを携帯して存在を知らせる＞

- クマは聴覚や嗅覚が人より優れています。
クマ鈴、ラジオ、笛など音の出るものを鳴らしながらクマに人の存在を知らせる対策をしましょう。
- クマ鈴等は万能ではありません。過信せず、周辺の気配に常に注意しましょう。



＜クマの存在を意識する＞

- クマの足跡やフンなどを見つけたら引き返しましょう。

＜子グマを見たらそっと立ち去る＞

- 母グマは子グマを守るために、人へ攻撃することがあります。
子グマを見かけたらそのままそっと立ち去りましょう。



裏面に里地での注意を記載しています。

夏はクマが里地に最も近づく季節です

○ 山の食べ物が少なくなります

夏は、山の中でツキノワグマの食べ物が少なくなるため、人里近くに出没し、人身被害のリスクが高まったり、農作物へ被害を与えたりすることがあります。

○ 若いクマが親離れする時期になり、里地に近づく恐れがあります。

夏は1～2歳の子グマが母クマと別れて暮らし始めます。若いクマは人への警戒心が薄く、生活域を求めて里地へ出没する危険性が高まります。

○ クマの交尾期にあたり、特にオスの行動範囲が広がります

6～8月頃にかけて、オスがメスを探すために広い範囲を行動します。

<里地へクマを近づけない対策を！>

- ・畑や果樹園等の周囲には、電気柵を設置したり、周辺のヤブをあらかじめ刈り払ったりするなど、クマを寄せ付けない対策をとりましょう。
- ・生ゴミはクマにとって栄養価の高い食べ物です。一度餌付いてしまうとその場所に執着するようになり、人に見つかることを恐れなくなるなど、人身被害の可能性が高まります。長時間屋外に放置しないように適切に管理をしてください。（クマが誘引される物：漬物、廃油、油性塗料、燃料 等）

<クマと遭遇してしまったら…「あわてず落ち着いて行動」することが重要です>

○遠くにいる場合

- ・静かにその場から立ち去る（クマが先に人に気付けば、ほとんどの場合クマの方から逃げる）。

○近くでバツリ遭遇してしまった場合

- ・背中を見せて逃げるのは禁物（逃げる物を追いかけるのはクマの本能）。
- ・大声で叫んだり、石などを投げつけたりせず、ゆっくり後ずさりして離れる。

○襲ってきた場合

- ・急所である顔や喉、後頭部や腹を守れる姿勢（地面に伏せ両手で首の後ろを守る等）をとる。
- クマに遭遇してしまった場合の正しい対処法やとってはいけない危険な行動を紹介中です。

（以下のURL 又は二次元コードからご視聴ください）。

【視聴方法】YouTube にて視聴いただけます。

（<https://www.youtube.com/watch?v=16h5dRID1LU>）

